

実験概要

水を入れたビンを戸外にしばらく放置し、中の水が蒸発する様子を観察する。

実験の目的

水は空気中に出ていくのだろうかを確かめる。

実験材料

- ガラス瓶×2
- 輪ゴム
- ラップ
- マジックペン



実験準備

2つのガラス瓶の準備をする



水の高さに目線を置いて印をつける。



実験手順

- ① 二つのガラス瓶を
太陽の下に置く



6時間後



 晴天の日で、口径8cmのジャム瓶で実験したところ6時間おくと約3mm蒸発して水位が下がった。
 真横からのぞきながら確認する。

実験結果と実験からわかってほしいこと

- 蓋をしなかった方の水は、量が減った。
- 水が空気中に出ていった。これを蒸発と言う。

発展

- ★ 水は沸点(100℃)では全て蒸発して気体となるが、それ以下でも蒸発という現象は起きる。
- ★ 洗濯物が乾くのはなぜかを考えてみよう。
- ★ 実験No.81「水の状態変化」を参照し、温度の変化で水はどのようになるのかを合わせて考えよう。

